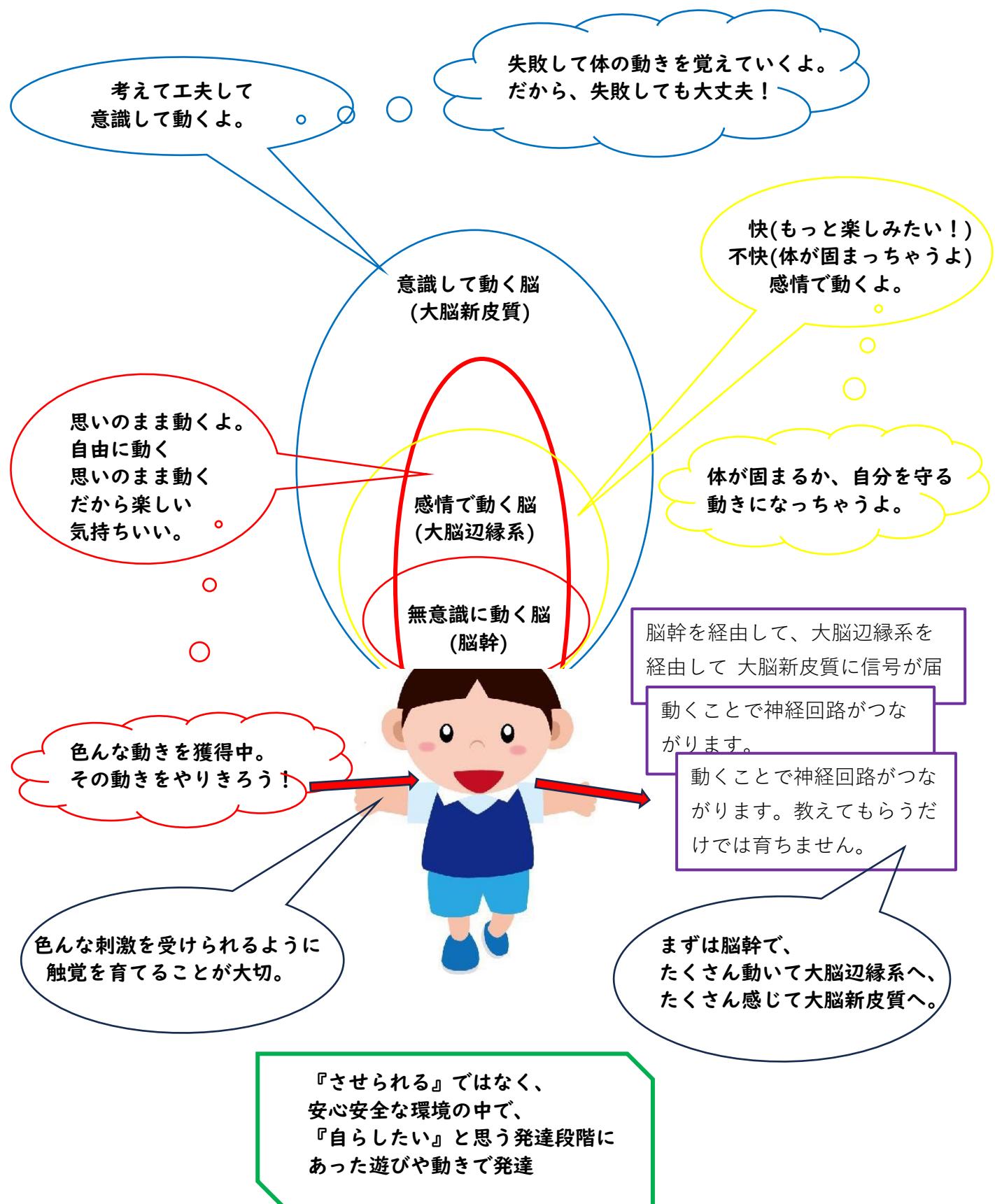


自分らしく発達

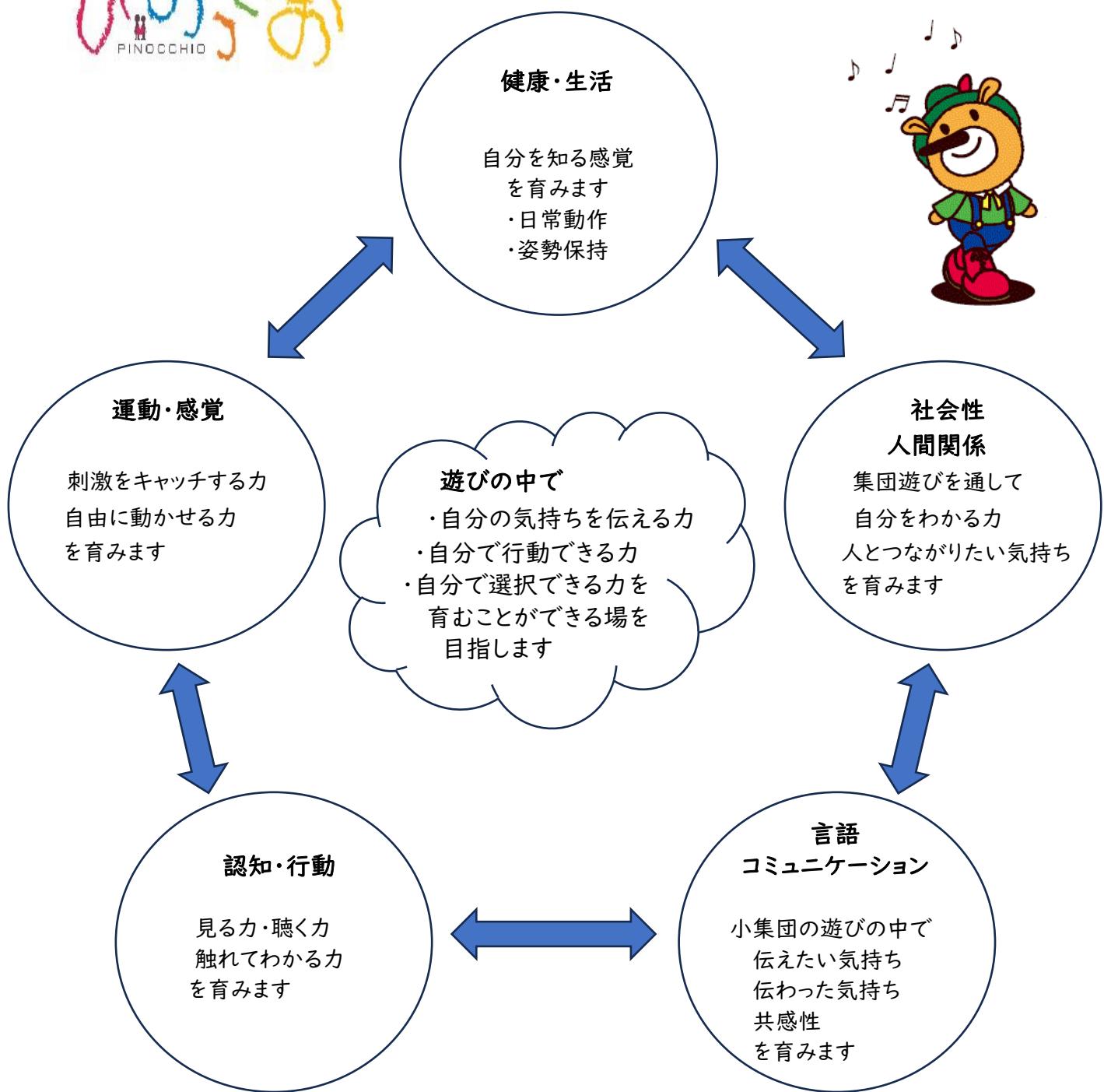
子どもは本来自分で自分を成長させる力があります。興味のあるものを見つけると身体と心を向けて、持っている力を総動員しながら好奇心のおもむくまま、日々、外の世界に働きかけています。自分のやり方とペースで、身体、心、脳を動かしながら自分らしく発達していくのです。

脳の発達と動きの関係





の理念 … ★5領域に基づいて支援



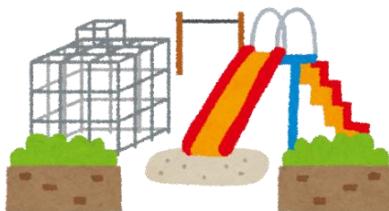
◆ 支援方針 ◆

- 「楽しかった」を感じられる環境づくりに努めます。
- 子どもが自ら感じ、考え、行動するために必要なサポートは何かを追求します。
- 「次への気持ち」「人への気持ち」「人との関わり」とつなぎ、広げていける「つながる場」であり続けます。
- 子どもたちにとって、保護者にとって、安心できる場であるよう、寄り添う気持ちを大切に共に考え共に喜ぶチームであり続けます。
- 自立課題に取り組む時も、本人の興味のあるものを見つけて、楽しく取り組める環境の中で日常生活に活かせる動きのスキルアップにつなげていきます。

◆ 健康・生活

自分自身の体を知って『疲れている』『休憩しよう』と自ら感じ発信できるよう、まずは遊びを通じて触覚、体性感覚を育てます。

取り組み一例：事業所内広場でサッカー・バトミントン、備付け遊具での上り下り・トランポリン



◆ 運動・感覚

動くことで神経回路がつながり、その動きを繰り返すことで、情動・思考力・創造力を育てていきます。

子どもが動きを繰り返すためには『もっとしたい』と思う『楽しい!』が必要です。

遊びの中で自由に動き、自分でコントロールできる身体、色んな感覚・刺激をキャッチできる身体を育てます。

取り組み一例：ラジオ体操・旗振り体操・グーパー運動等の上下肢の動きを意識した運動

◆ 認知・行動

認知とは視覚・聴覚・触覚など、感覚器から入力された情報を、脳の中で情報処理し出力する(指令を出す)能力です。

情報を得て行動をするために、見る力、聞く力、感じる力につながる、注目できる身体触覚を育てます。

取り組み一例：カードゲーム(犯人は踊る等)や名前呼び鬼ごっこ等オリジナルルールで想像する力を育む遊び

◆ 言語・コミュニケーション

動きたいように動ける、話したいように話せる環境の中で、本人の望みを満たし、『見て見て』『聞いて聞いて』を受けてもらう、認めてもらう経験、子ども主体に大人が一緒に遊ぶ、一緒に喜ぶことで感情共有、共感できる経験を重ね、伝えたい気持ち、伝わった気持ちを育てます。

取り組み一例：傾聴・受容を重視した会話

◆ 社会性・人間関係

まずは1対1、個別で人との関係を築き、大人が見守っている安心感の中で、子ども同士自分たちのペースで人と寄り添う、ぶつかる経験ができる環境を整えます。

自分の気持ちを掴み、自分の思いを発信する力、行動力を育てます。

取り組み一例：各種鬼ごっこ、ドッヂや中当て等のボール遊び



∞ 家族支援 ∞

- ・個別相談支援(随時)

∞ 移行支援 ∞

- ・入学時に学校との連携
- ・就労先と情報共有すると共に
仕事内容を自立課題に取り入れ
本人の強み・弱みを把握

∞ 地域支援 ∞

- ・学校や幼稚園、保育園等
関係機関との連携

∞ 職員の質の向上 ∞

- ・『発育発達アソシエイト』『自閉症
スペクトラム学会』を始め、発達障害
などに関する各種研修会参加

∞ 主な行事 ∞

- ・施設内での、夏の水遊びを実施
- ・各種季節行事
(夏祭り、クリスマス会、豆まき)
- ・遠足(公園、社会見学、遊戯施設)
- ・お別れ会

∞ 営業時間 ∞

- ・サービス提供時間
月曜日～金曜日
12:30～17:30
- 土曜日・学校休業日
11:00～17:00
- ・送迎あり・日曜日・祝日休業